



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：バンドル元総合情報庁長官の復権・ハーリド副国防相の総合情報庁長官任命

2014年6月30日、アブドゥッラー国王は、バンドル・ビン・スルターン王子（元駐米大使、元総合情報庁長官）を、国家安全保障会議（NSC）事務総長と兼務して、国王顧問・特使に任命する勅令第167号を発出した。また、同日、同国王はハーリド・ビン・バンドル副国防相を総合情報庁長官に任命する勅令第168号を発出した。

評価

バンドル・ビン・スルターン王子は、1983年から2005年まで駐米大使を務め、2005年からは総合情報庁長官を務めていた。駐米大使時代に構築された各国要人との太いパイプを持ち、サウジアラビアの対シリア政策を主導するなど、有力王族の一人として見られていた。しかし、今年の4月に総合情報庁長官を解任されたことで、その理由や去就については、様々な憶測が流れた。（詳細については「バンドル総合情報庁長官の解任」『中東かわら版』No.7（2014年4月16日）をご参照ください）

今回の勅令により、4月の解任人事は、バンドルを政治の中心から完全に排除するような措置ではなかったことが明らかになった。また、2005年から保持しているNSC事務総長職にも留任していることが確認され、バンドルは引き続きサウジの国防問題について影響力を発揮できる立場にいる。6月20日にアブドゥッラー国王がエジプトを訪問した際の同行メンバーにバンドルが含まれていたことも、その証左と思われる。

新たに総合情報庁長官に任命されたハーリド・ビン・バンドルは元陸軍司令官で、今年の5月にリヤード州知事から副国防相（閣僚級）に異動したばかりであった。（詳細については「副国防相、リヤード州知事等の移動」『中東かわら版』No.27（2014年5月15日）をご参照ください）

こちらの人事は、当初28日に副国防相職の解任人事の勅令が先行したことから、サルマーン皇太子兼国防相及びムハンマド皇太子事務所長（サルマーン皇太子の息子）との確執により、更迭されたとの見方が報道された（6月29日付Gulf News紙）。しかしながら、今回の勅令によって、トウルキー・ビン・ファイサル、バンドルといった有力王族が就いてきた諜報機関のトップに任命されたことで、むしろ順調に昇進していると評価できよう。

（村上研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799